

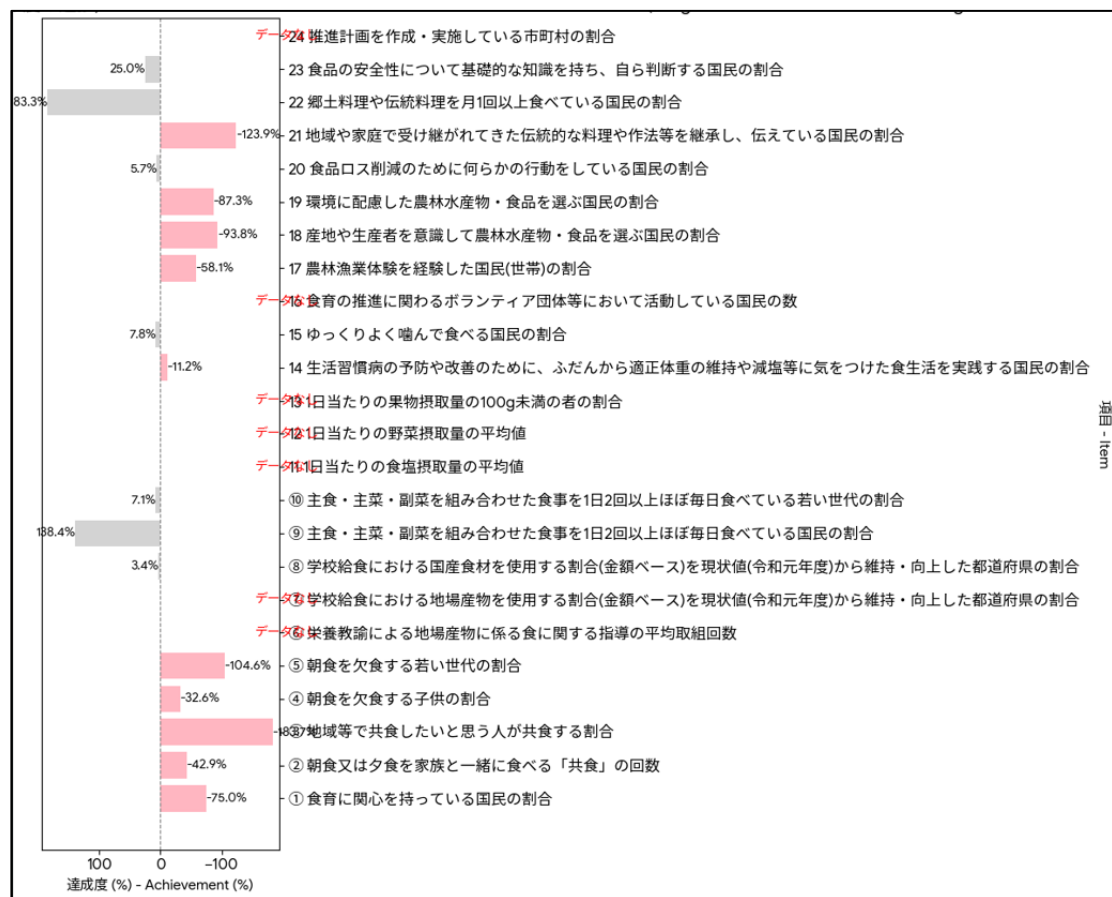
第5次食育推進基本計画の立案における
新しいアプローチのご提案

辻調理師専門学校
校長 辻 芳樹

食育活動は岐路に立っている

第4次食育活動の目標数値は、ほとんどが達成できていない。むしろ下がっている項目が多い
新しいアプローチによる活動へと転換期にある

第4次食育推進基本計画における数値目標の進捗状況



新しいアプローチが必要

20年間「栄養学」を推進力として展開し、生活習慣病をはじめとしたヘルスケアを目的とした食習慣への警鐘は成功し、食生活の改善など大きな成果があった。

しかし、20年が過ぎ、既存の活動（刺激）に対して反応が鈍くなり「馴化（じゅんか）」が生じてきていると判断。

現在の活動の延長で、第5次計画を推進しても成果はでにくいと推察され、「新しいアプローチ」が必要。

新しい動き、潮流

官民連携食育プラットフォームが創設（2025年6月27日）され、
参加する企業に「パーパス（purpose: 自社の存在意義）」を掲げることを義務づけた

官民連携食育プラットフォーム 設立発起人企業一覧（50 音順）
2025 年 6 月 26 日現在

株式会社伊藤園
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
大塚製薬株式会社
カゴメ株式会社
株式会社カスミ
カルビー株式会社
キッコーマン株式会社
キュービー株式会社
シダックス株式会社
株式会社セブン&アイ・ホールディングス
一般社団法人 全国農業協同組合中央会
株式会社ダイエー
株式会社日本アクセス
日本ハム株式会社
ハウス食品グループ本社株式会社
株式会社ベルク
株式会社 Mizkan
株式会社明治
株式会社ライフコーポレーション
株式会社ワイズマート

国際社会（E S G 経営）を意識する企業が参画

企業が社会的義務ではなく、**社会的存在意義**により食育を推進



経営者直轄にて推進力の高い**C S V ・ E S G 活動**へと展開

農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/otona_syokuiku/platform/attach/pdf/hokkinin_syokukai-20.pdf

第 5 次食育推進は、**企業がオピニオンリーダー**となる可能性が高い

国際社会から眺めた食育活動の転換

ヘルスからウェルビーイング、食の機能性から多様性の担保へ
ボランティア・CSRから、CSV・ESGへ



産業が分断

もとに戻らない、イノベーションにより産業のリフレーミングが必要

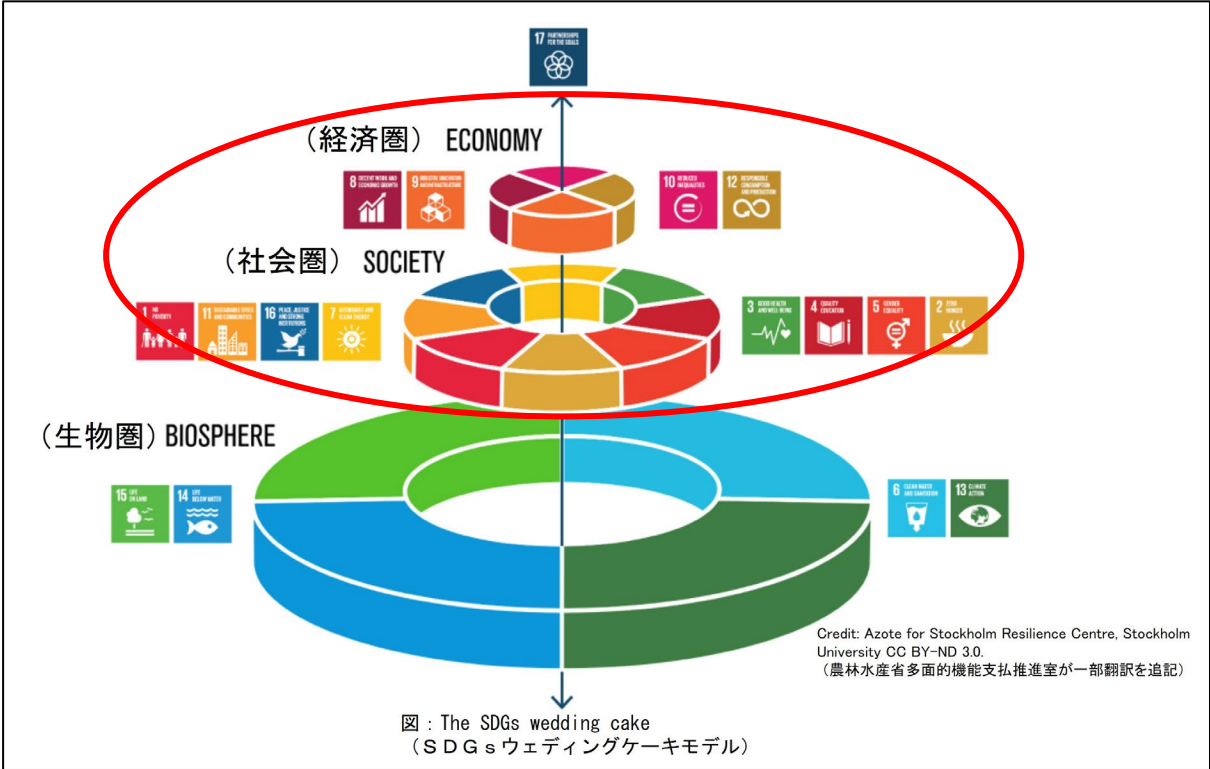


図: The SDGs wedding cake (SDGs ウェディングケーキモデル)
農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/jirei_SDGs.html

大阪府 https://www.pref.osaka.lg.jp/o120110/ryutai/osaka_6jisangyo/index.html

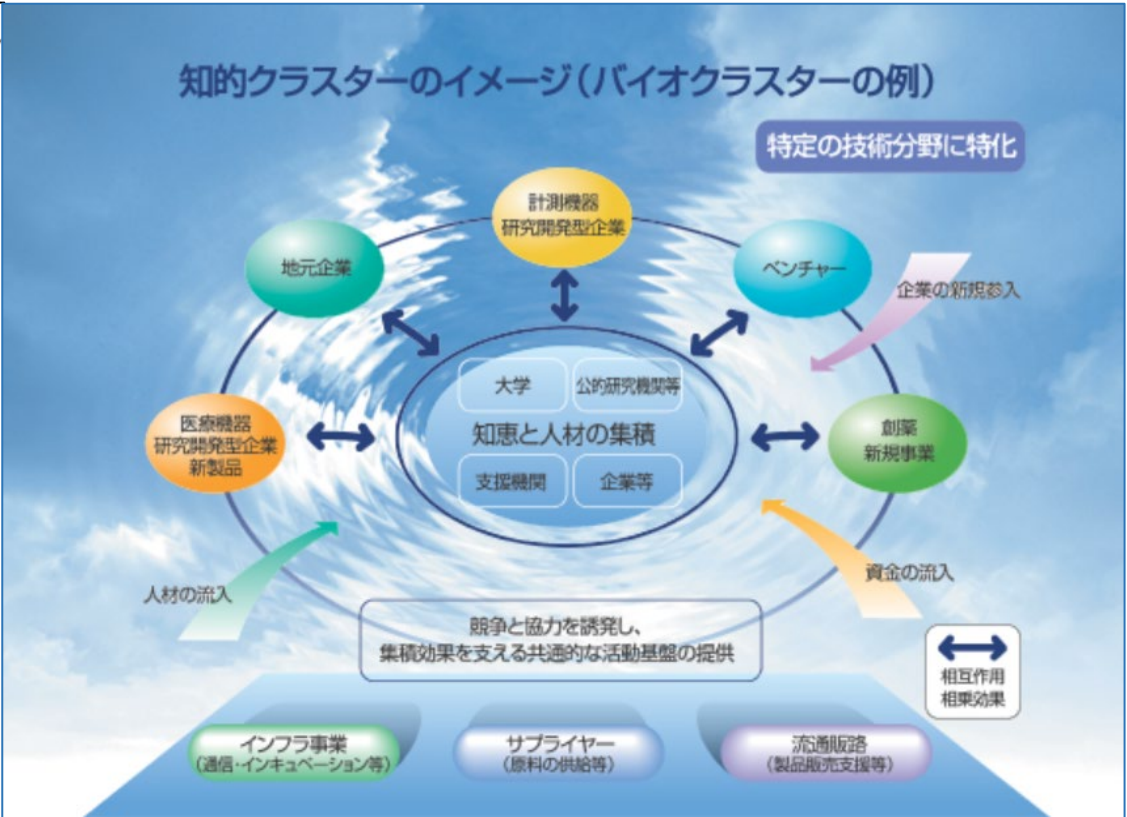
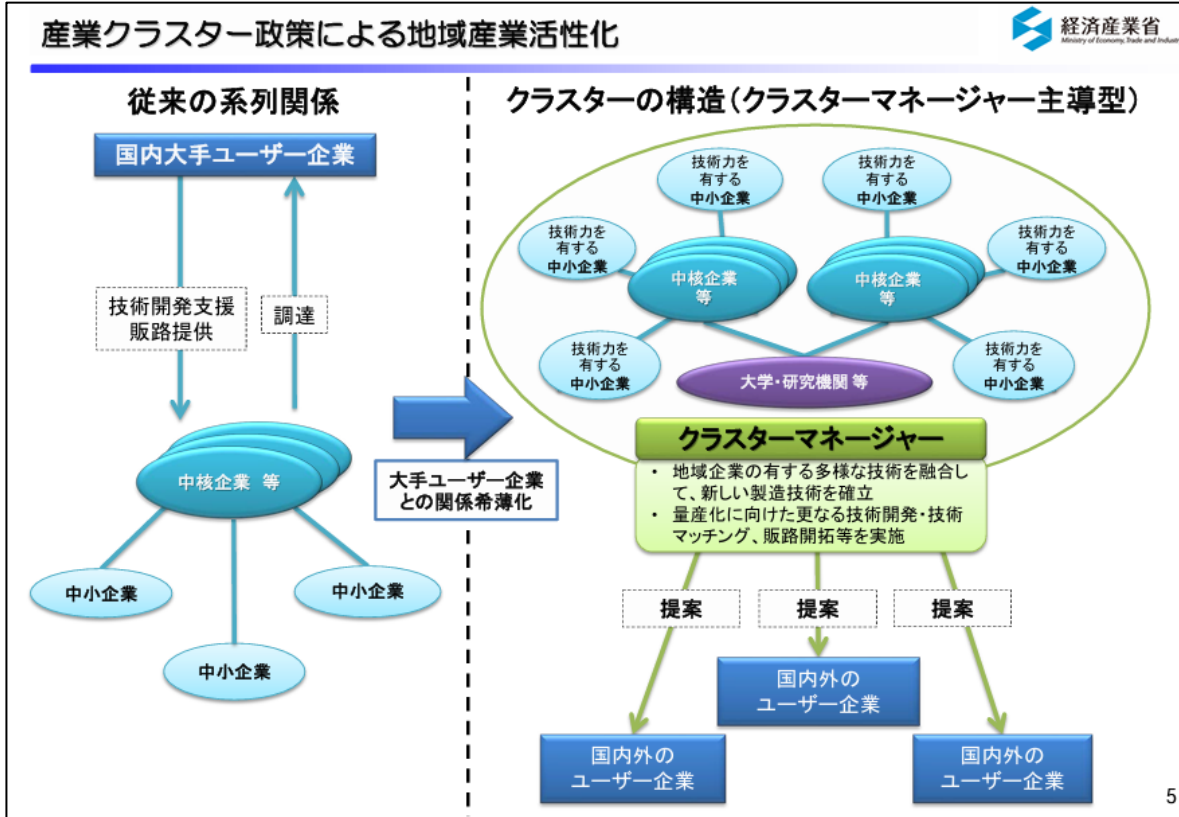
「和食」の世界観をビジョンへ

豊かな自然に寄り添う「和食」の文化／季節表現に情動をのせる
義務や倫理ではなく、豊かさを追求する



食育推進における地域への展開（狙い）

教育機関に参画させ、クラスター・コアを創出させる
豊かで健康的な食文化を掲げ、産官学金にて地域クラスターを形成させる



経済産業省 第30回 産業構造審議会 地域経済産業分科会 工場立地法検討小委員会
資料3-2「産業クラスター施策の概要」より抜粋
https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/chiiki_keizai/kojo_ritchi/pdf/030_03_02.pdf

文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/chiiki/cluster/about.htm

5 次食育計画では長期成長にクラスター・コアの創出に取り組む